茨城新聞掲載記事（2015年掲載）

船の旅、79組が大洗出発

親子ふれあいクルーズ in 北海道

北海道を巡る旅を通して小学生の親子が絆を深める「親子ふれあいクルーズin北海道」（茨城新聞社、下野新聞社、上毛新聞社主催、日立ボートサービス旅行企画・実施）の第1班が26日夕、大型フェリー「さんふらわあ」で、大洗町の茨城港大洗港区を出発した。

催しはことしで13回目。第1班には茨城、栃木、群馬3県から小学生の親子計79組160人が参加し、4泊5日の旅を楽しむ。

一行は約19時間の船旅を経て、27日午後に北海道の苫小牧港へ到着予定。札幌市の[illegible]展望台などを巡り、旭川市の旭山動物園や[illegible]町のラベンダー畑などを巡って夏の北海道を満喫する。

出航セレモニーでは参加者を代表して各県1人ずつがあいさつ。[illegible]、市立[illegible]小4年、高間翔希くん(10)は「そろばんと陸上をやっています。動物園の見学が楽しみです」と話した。

親子たちはネームプレートを首からさげ、組ごとに自己紹介。ひと夏の旅に胸を弾ませ、フェリーに乗船した。

（安ケ平絵美）

——◆——

第1班を代表し、あいさつする高間翔希くん＝大洗町の茨城港大洗港区

乗馬や自転車満喫

苫小牧

親子ふれあいクルーズ in 北海道

乗馬を楽しむ子ども＝北海道苫小牧市のノーザンホースパーク

北海道の旅を通して親子の絆を深める「親子ふれあいクルーズin北海道」（茨城新聞社、下野新聞社、上毛新聞社主催、日立ボートサービス旅行企画・実施）の第1班は29日、旭川市の旭山動物園や苫小牧市のノーザンホースパークを訪れ、北海道最後の日の思い出をつくった。

一行は動物園でアザラシやホッキョクグマ、[illegible]などの動物を見学。サルが高い柱の上を[illegible]ように歩くと、子どもからは「すごい」「もう一回やって」と観客の声が上がった。

砂川市内で「サケのちゃんちゃん焼き」の昼食を取った後、一行はホースパークに到着。2人乗りの自転車に乗ったり、乗馬を楽しんだりした。石岡市三村、同市立三村小6年の片岡[illegible]さん(12)は「一番背の高い馬に乗った。乗り降りが難しかったけど、馬が暴れなくて良かった」と話した。

一行は苫小牧港でフェリーに乗船し、帰路に就いた。

（安ケ平絵美）

笑顔で感謝の手紙

大洗帰港

親子ふれあいクルーズ in 北海道

親子が北海道の旅を通して絆を深める「親子ふれあいクルーズin北海道」（茨城新聞社、下野新聞社、上毛新聞社主催、日立ボートサービス旅行企画・実施）の第1班、79組158人は30日、大洗町の茨城港大洗港区に帰港した。子どもたちは笑顔で旅を振り返りながら、友人たちとの再会を喜び合った。

下船前のレクリエーションでは、今回の旅に連れてきてくれた保護者に、子どもたちが感謝の手紙を読み上げた。

水戸市見和、市立見和小3年、山崎悠君(9)は、道中一つ一つの思い出をかみしめながら父親に「ジンギスカンをいっぱい食べておいしかった。船旅に来られてすごく楽しかったよ。また旅行や冒険に行きたいこともたくさんあったね」と笑顔を見せた。

感謝の手紙を読み上げる参加者の山崎悠君＝フェリー「さんふらわあ」船上

[illegible]の祖母と参加した[illegible]小6年の村井[illegible]さん(11)は祖母に、「お母さんと一緒の参加者が多かったけど、ばあばで良かったって思った。本当にありがとう」と、素直な気持ちを伝えた。

同日午後、一行は大洗港区に到着。夢のような時間の余韻を惜しみつつ、思い出を胸に刻んでいた。

（安ケ平絵美）

船動かす仕組み見学

苫小牧港に到着

親子ふれあいクルーズ in 北海道

北海道の旅を通して親子の絆を深める「親子ふれあいクルーズin北海道」（茨城新聞社、下野新聞社、上毛新聞社主催、日立ボートサービス旅行企画・実施）の第1班は27日、北海道の苫小牧港に到着した。

一行は到着前、大型フェリー「さんふらわあ」の操舵室を見学。船長や航海士から、船舶用レーダーなど船を動かす仕組みの説明を受けた。航行中、クジラがフェリーの近くを泳ぐと、歓声が上がった。

——◆——

船長や航海士の話を興味深そうに聞く親子＝大型フェリー「さんふらわあ」内

船の旅行は初めてというひたちなか市立[illegible]小4年、松崎[illegible]人君(9)は「クジラが3頭ぐらい見えた！」と興奮気味に笑顔を見せ、父親の[illegible]さんも「子どもが喜んでいて良かった」と笑顔だった。

船内での親子レクリエーション後、苫小牧港で下船。バスで札幌市の羊ケ丘展望台に向かうと、降り続いていた雨もやみ、記念撮影や買い物を楽しんだ。

この日は定山渓温泉に宿泊。巨大なプールや豪華な食事で、旅の疲れを癒やした。

（安ケ平絵美）

大自然満喫へ

第2班が大洗出発

親子ふれあいクルーズ in 北海道

出発セレモニーであいさつする下妻市大宝小1年の山内洸希君＝大洗フェリーターミナル

北海道の旅を通し親子の絆を深める「親子ふれあいクルーズin北海道」（茨城新聞社、上毛新聞社、下野新聞社主催、日立ボートサービス旅行企画・実施）の第2班が1日夕、大型フェリー「さんふらわあ ふらの」で大洗町の茨城港大洗港区を出発した。

2班には茨城、栃木、群馬の3県から小学生の親子84組168人が参加。約19時間の航海を経て2日午後、北海道の苫小牧港に到着する。札幌市の定山渓温泉などに宿泊し、テーマパーク「白い恋人パーク」では菓子作りを体験。旭川市の旭山動物園や苫小牧市のノーザンホースパークなど観光名所を巡り、4泊5日の旅程で夏の北海道を満喫する。

出航セレモニーでは、3県を代表して児童が1人ずつあいさつ。下妻市大宝小1年の山内洸希君(6)は「5日間、よろしくお願いします」と笑顔で話した。

7月31日夕に苫小牧沖で発生した商船三井フェリーの船舶火災について、商船三井の担当者が説明し、船の安全性や救命胴衣の使い方について確認した。

大洗町のイメージキャラクター「アライッペ」が見送る中、参加者たちは期待に胸を膨らませ、一夏の思い出づくりに向けて元気いっぱいにフェリーに乗り込んだ。

クッキー作りに挑戦

札幌

真剣な表情でクッキーに絵を描く子どもたち＝札幌市の「白い恋人パーク」

親子ふれあいクルーズ in 北海道

北海道の旅を通して親子の絆を深める「親子ふれあいクルーズin北海道」（茨城新聞社、下野新聞社、上毛新聞社主催、日立ボートサービス旅行企画・実施）の第1班は28日、お菓子作り体験や花畑の散策を楽しんだ。快晴の下、親子で伸び伸びと活動し、北海道での夏休みを満喫した。

札幌市の菓子メーカーのテーマパーク「白い恋人パーク」では、コック帽をかぶった子どもたちが、お菓子作り体験で、北海道などの形のクッキーにチョコレートのペンで自由にお絵描き。子どもの真剣な表情を熱心に撮影する親も多かった。

つくば市小山、同市立小山小4年、鈴木文[illegible]さん(10)は「船やネコの形のクッキーに、自分の名前を書いた。楽しかった」と話した。

同パークではショッピングや工場見学を楽しむ参加者もいた。

同市内の飲食店でジンギスカンの昼食に舌鼓を打った後、一行のバスは一面緑の畑を進み、美瑛町の観光名所「四季彩の丘」に到着。ラベンダーなどが一面に咲き誇る丘を、親子や友人同士で散策していた。

（安ケ平絵美）

終わり惜しみ

思い出胸に帰港

親子ふれあいクルーズ in 北海道

北海道を巡る旅を通して親子の絆を深める「親子ふれあいクルーズin北海道」の第2班84組168人の親子が5日、4泊5日の旅程を終え、茨城港大洗港区に到着した。

下船前には、子どもたちが旅に連れてきてもらった感謝の気持ちをこっそり手紙にし、保護者の前で読み上げるレクリエーションが行われた。

母親の石井一葉さんに向けて感謝の手紙を読む紅さん＝「さんふらわあ ふらの」船内

笠間市立笠間小4年石井紅さん(9)は母の一葉さんに向け「最初は不安だったけど、だんだん北海道に慣れて良かった。本当にありがとう」と読み上げた。一葉さんは「仕事で忙しく接する時間が少なかったが、5日間ずっと一緒にいられて有意義に過ごせた」と話し、娘の成長をかみしめていた。

絵付け体験や動物園見学

親子ふれあいクルーズ

北海道の４泊５日の旅を通して親子が絆を強める「親子ふれあいクルーズｉｎ北海道」は、１班（７月25～29日）と２班（８月１～５日）に分かれ、茨城、栃木、群馬３県の親子ら計163組326人が参加した。一行はフェリーに乗船し、レクリエーションで親交を深めた。現地ではクッキーの絵付け体験や、旭川動物園などを見学。日常生活を離れ、親子水入らずの５日間を過ごした。茨城新聞社、下野新聞社、上毛新聞社主催、日立ポートサービス旅行企画・実施。

船内レクリエーションを元気いっぱい楽しむ＝大型フェリー「さんふらわあ」

広大な花畑を散策＝美瑛町の「四季彩の丘」

あつあつの「鮭のちゃんちゃん焼き」に舌鼓を打った＝砂川ハイウェイオアシス

北海道の形のクッキーに、チョコで自由に絵を描く子どもたち＝札幌市西区の白い恋人パーク

つながる輪

親子ふれあいクルーズ

◆上◆

一緒にゲーム満喫

芽生えた友情

茨城、栃木、群馬から計約１５８人の親子らが参加した「親子ふれあいクルーズｉｎ北海道」第１班。大半の親子が、２人で５日間の北海道の旅は初めての経験だ。一行は観光や体験学習、レクリエーションをきっかけに、交流を深めた。子どもたちは旅先での友情を育み、親は普段の生活では気付かない子どもの成長を感じ取った。旅を通してつながった参加者同士の「輪」を紹介した。

（安ケ平絢菜）

◇

元気よくぴょんぴょんと跳ねながら、レクリエーションを楽しむ２人の女の子。カメラを向けるとぴったりの笑顔を見せてくれたのは、水戸市立上中妻小１年、小松桜菜子さん（６）と、那珂市立菅谷小２年、稲葉沙羅さん（７）だ。

出会いは初日のフェリー。部屋が隣同士で、ドアを開けた瞬間に顔を合わせたところ、沙羅さんが話しかけた。「うまが合ったみたい」と、沙羅さんの母親の千鶴恵さん。すぐに意気投合した２人は、計画を立てて動物園を回るなど、５日間をずっと一緒に行動した。

一人っ子の沙羅さんは[illegible]、同世代の友人をつくるため、昨年からクルーズに参加している。桜菜子さんより１学年上のためか、「一緒に行こう」と積極的に声を掛け、お姉さんのように接していた。

桜菜子さんは、昨年クルーズに参加した兄の様子を見て、「自分も行きたい」と希望した。母親の祥子さんによると、「負けず嫌いで、とても真面目な性格」。普段は[illegible]が目立っていたため、友人と遊ぶ[illegible]姿を意外に感じたという。「習い事や宿題からも解放されて、親を独り占めできたのも、うれしかったんでしょうね」

旅で一番楽しかったことは「ホテルのプールが広かった」と沙羅[illegible]滑り台がお気に入りで、夢中になって遊んだ。桜菜子さんがバタ足を練習していると、それを見ていた沙羅さんも練習するようになったという一幕も。

最終日も２人は同じテーブルに着席して、レクリエーションのビンゴゲームでは、それぞれ景品を獲得。[illegible]引き、当たりを回り出すおもちゃをもらい、親子ぐるみで盛り上がっていた。

「また会おうね」。フェリーを降りながら、２人は別れ際に約束を交わした。帰宅後すぐ、桜菜子さんは沙羅さん宛てに手紙を書いた。「シールを貼って、１年生なりにがんばって書いた」（祥子さん）。はがきは翌日に到着し、沙羅さんもすぐに返事を出した。２人は文通を通して、今も友情を深めている。

レクリエーションを楽しむ小松桜菜子さん（左）と稲葉沙羅さん＝フェリー「さんふらわあ」

つながる輪

親子ふれあいクルーズ

◆下◆

祖父と初めて外泊

確かな成長

「じいじ、あっちに行こう！」。旭山動物園の広い敷地内を、元気いっぱいに駆けていく、つくば市立[illegible]小２年の矢島瑠之介君（７）。トラやライオンなど、迫力のある動物が集まった猛獣のエリアに興味津々だ。その背中を[illegible]見守りながら、祖父の阿部宗平さん（63）が追い掛ける。「旅行中は孫についていくのが精いっぱいで。自分の時間は少なかったかな」と話しつつ、どこかうれしそうな阿部さん。

シカのおりに近づいたとき、阿部さんがつぶやいた。「山の調査中、野生のシカとにらめっこしたこともあります」。農学博士の阿部さんは、災害調査を職[illegible]ための土石などの研究を行っており、北海道も数回、調査で訪れていた。「来年、北海道には仕事で来た[illegible]なので、今回の旅は力を抜いて、ゆっくりできた」と笑顔。

瑠之介君の母親が、小学校からクルーズの案内をもらってきたのが、参加のきっかけだ。２人きりの外泊は初めての体験。阿部さんは牛久市、瑠之介君はつくば市にそれぞれ住んでいるが、互いの家に野菜を持って訪ねるなど、つながりを大切にしている。クルーズ出発当日も、家族の皆が見送ってくれた。旅行中も度々、北海道の出来事を電話で家族に伝えていたという。

旅行中、２人はぴったりと寄り添っていた。フェリーのレクリエーションでは、折り紙に一生懸命取り組む瑠之介君の横で、阿部さんが優しくアドバイス。北海道に降り立ってからも、仲良く観光を楽しんでいた。

苫小牧市のノーザンホースパークでは、２人乗り用の自転車に挑戦。最初は阿部さんが運転役を務めたが、バランスを取るのがなかなか難しい。「やってみる？」と、かじ取りが瑠之介君に移された。慣れない乗り物に２人で笑い合いながら、瑠之介君は少しずつコントロールを身に付けていき、広大な敷地内を回った。

旅行中の瑠之介君の姿について、阿部さんは「家族と距離があるなと思った。他の子とルールを守って行動したり、相部屋の子と仲良くしてプールで遊んだりしていた。旭川市内では積極的に質問を投げ、夕食の場所を探すなど、私を助けてくれる場面も多かった」と振り返る。孫のしっかりとした一面に感[illegible]

瑠之介君は祖父について、はにかみながら「好き」と言った。今回の旅では「（動物園の）動物が一番よかった」と話す。「また北海道に来たいな」。思い出を胸に、２人は仲良く帰路に就いた。

動物園を見学する阿部宗平さん（右）と矢島瑠之介君＝北海道苫小牧市